

# ICAN Monthly Report



フィリピンの学校での国際理解教育

## 「私」と「あなた」の間にあるもの。

<国際理解教育事業：フィリピン事務所代表・野村からのレポート>

1月29日、ブラカン州にある私立の学校、イマキュレイトコンセプション学校パリアワグ校 (ICSB) の生徒約220人に、路上の子どもやパヤタスごみ処分場の問題についての講演をしました。路上の子どもたちの事業に10年以上関わるスタッフのノートが、マニラの路上の子どもの写真を見せ、どう思うかを学生たちに問かけると、「親はどこにいるのかな」「怖い」「必要なものを与えられていなくて可哀想」などの答えが返ってきました。同じフィリピンの子どもでも、私立の学校に通うことのできる学生にとって、路上の子どもの置かれている状況は、全く違う世界です。講演後、学生たちからは、「路上で大人になった青年はどうなるの?」「寄付やボランティアをしたい場合はどうしたらよい?」などの質問が出ました。

翌日、ICSBの生徒会を中心とする12人が、パヤタスごみ処分場周辺に住む家庭や、路上の子どもの協同組合カリエを訪問しました。カリエのメンバーにパン作りを教わりながら距離を縮め、パンが焼けるのを待つ間、円になって座り、今までで一番嬉しかったこと、親の職業、趣味、夢などを共有しました。

病院を経営する親、海外で働く親を持つICSBの学生に対して、親は無職、あるいは不安定な労働という路上の子ども。家事はお手伝いさんがやってくれ、趣味は読書というICSBの学生に対し、暇な時間はあまりなく駐車場で働いているという路上の子ども。体の大きさからして随分違いましたが、発言にも階層の違いが顕著に表れました。帰り道、ICSBのイサベルさん(15歳)は、「自分の町を出るとこんな現実があるのだと初めて知った。私たちはもっと知らなければいけない。」と言いました。

日本とフィリピンの間には、大きな経済格差があります。そして、フィリピン国内でも社会階層間にとっても大きな格差があります。同じフィリピン人なのに、両者には深い溝があるかのようです。互いに対して無関心で、互いを知ろうとしなければ、溝は深まるばかりです。この溝を少しでも埋めるように動く人材を育てるため、両者が出会う場を作るのが、アイキャンの重要な責任の1つです。フィリピンの私立学校の子どもたちと事業地の子どもたちが会い、互いを知り、互いの経験から学び、そこから自分たちの社会をよくしていく行動を起こしていけるよう、私たちは子どもたちに語り続けていきます。

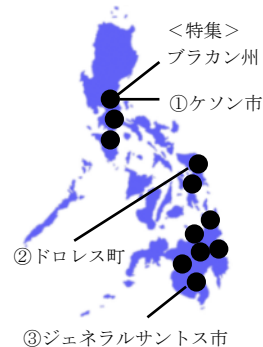
### マンスリーパートナー、今年度の目標まであと42名です。

アイキャンでは、活動を継続的に応援して下さるマンスリーパートナーを募集しています。2015年4月末までに、200名を目標に募集しており、現時点158名となっています。一日当たり33円から開始できます。ぜひ、パートナーになって、活動を応援してください! 詳しくはこちら⇒ <http://www.ican.or.jp>



フィリピン事務所代表  
野村幸代 (のむらゆきよ)  
～プロフィール～  
1970年広島生まれ。広島大学、フィリピン大学留学、日系NGOフィリピン駐在員を経て、2005年より現職。フィリピン人の夫、2人の息子とブラカン州在住。

## Project Site



※●はアイキャン活動地  
※番号は裏面に対応

認定NPO法人アイキャン (旧: アジア日本相互交流センター・ICAN)

日本事務局: 愛知県名古屋市中区大須 3-5-4 矢場町パークビル 9階 TEL/FAX: 052-253-7299 メール: [info@ican.or.jp](mailto:info@ican.or.jp)

⇒ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

## ①路上の子どもたち(マニラケソン)



### こんなカフェを作りたい

路上の青年の協同組合カリエのメンバー14名が、もうすぐマニラでオープンする予定のカフェの内装を考えました。「パンを作る様子を見せたい」(ジェイソン君/19歳)、「壁にカリエのミッションやビジョンを貼りたい」(セドリック君/17歳)などの意見が出ました。今までは自分たちが働く姿を想像できなかったメンバーですが、店舗予定地を訪れたことでイメージが膨らみました。(1月15日)

## ②災害の影響を受けた子どもたち(ドロレス)



### 大量に、そして公平に

サマール島台風被災地において、1月末までに、食料・衛生キットを3,979世帯に、ビニールシート等を2,203世帯・17機関に提供し、その後、内部及び地元政府による外部アセスメントを行いました。「アイキャンは、誰よりも早く駆けつけ、公平に物資を提供してくれるから、ありがたい」(ジョイさん)というコメントにも表れている通り、満足度が高いことが確認されました。(1月29日)

## ③先住民の子どもたち(ジェネラルサントス)



### 女性の健康を守ろう

多産や若年妊娠のケースが多い先住民ブラアンの村サンホセにおいて、女性の健康を守る権利や性感染症の予防に関する研修を行い、地域保健員27名が参加しました。女性の体のしくみや機能、性感染症の症状や感染経路、予防方法を学び、ルシラさん(55歳)は、「地域では少女が妊娠することもある。今日学んだことを自分の子どもや周りの若者にも伝えたい。」と語りました。(1月22、23日)

## 今月のICANを増やす活動

### MYアイキャン事業

#### ハガキとともに届く、温かいお気持ち

年明け早々から、郵便受けに入りきらない程たくさんの書き損じハガキのご寄付が毎日届きました。中には新聞記事で初めてアイキャンを知ったという方もおり、1月の合計は、40,797枚になりました。「地球上から貧困をなくし、誰もが健康で幸せになる社会にしたいですね」と書かれたお手紙も同封されているなど、全国から温かいお気持ちをお送りいただきました。(1月21日)



### インターン育成事業

#### 想いが伝わるプレゼン

12月からインターンを開始した大学生が、街頭募金の担当になり、活動前の参加者への説明を一人で行いました。職員から路上の子ども達の現状を事前に聞いてプレゼンの練習をし、施設の必要性を自分の言葉で参加者に伝えることができました。23名のボランティアからは、「フィリピンの子どもの想う気持ちが人を動かすのだと思った。また参加したい。」などの感想を頂きました。(1月31日)



## 今月のMedia

### 新聞3紙への掲載、NHKへの出演がありました！

1月9日 中日新聞(朝刊/名古屋市版) 書き損じハガキ募集

1月23日 NHK名古屋「おはよう東海」 台風被災地での活動

1月21日 電気新聞 ECOポイント活動での紙芝居作成

1月24日 読売新聞(朝刊/三重県版) 書き損じハガキ募集

## 今月のICANな人

☺ 千葉さん、温かいメッセージをありがとうございました！

### マンスリーパートナー 千葉胤倫さん

#### 「自分が探していたもの」

インタビュー:1月31日

私は、以前アジアを旅行した際、花売りの子どもや歌を歌って10円を乞う子どもを見て、何かできることはないかと思いつきながら、何もできずにいました。その後、国内で水害被災地でのボランティアをしたことはありましたが、海外に関わる活動を探していた時、勤務先の紹介でアイキャンを知り、名古屋にある日本事務局を訪問しました。一人の社員が旅行でフィリピンを訪れたのが設立のきっかけと聞いて、自分ができなかったことをやっているということが印象に残り、「自分が探していたものはこれだ」と思いました。すぐにマンスリーパートナーになりましたが、日本事務局の忙しそうなお様子を見て、何でもいから手伝えたらと思いつき、土曜日はできるだけボランティアに来ています。フィリピンの子どもたちが夢を持てるよう、これからもその手助けができればと思っています。



編集者から一言: 皆様から頂いた書き損じハガキをいち早く事業に役立てるため、日本事務局ではハガキカウントボランティアさんを募集しています。